



この一年を振り返って

熱海市長 齊藤 栄

年の瀬が迫ってきました。2011年を振り返って、私の視点で印象に残ることが二つあります。

ひとつは東日本大震災です。震災当日、市長室のテレビで見た津波の映像は本当に衝撃的でした。そして、観光業を基幹産業とする熱海市にとって大きな経済的な打撃を与えたものが計画停電です。私は近隣の首長と共に東京電力の本社に行き、計画停電の回避とともに観光地の実情を訴えるなどできる限りの手を尽くしました。幸い計画停電の影響を最小限に抑えられたと思います。また、熱海市は東北の被災地の支援にも力を入れました。旅館・ホテルを中心とした避難者の受け入れは、11月末現在、延べ6千百人に達し、消防を含めた職員の派遣は24人、義援金（日本赤十字社分のみ）は約2千8百万円に上ります。市民の皆様のご支援に心から感謝すると共に、今回の災害を教訓に市の防災力のさらなる向上に努めていきます。

もうひとつは新たな副市長の就任です。経済産業省から来た33歳の田邊副市長は熱海市にとって新しい風です。「熱海の再生には、新たな需要を生み出すための『知恵と工夫』が何より重要」が彼の信念です。就任して約半年、常に新鮮な視点を持ちながら、私の思いの実現に力を発揮してくれる頼もしい女房役です。これからも（おそらく）日本一背の高い市長と日本一若い副市長の二人三脚で、新しい熱海の創造に取り組んでいきます。

今年は大震災をはじめ激動の一年でした。来年は市民の皆様にとって良い年となりますように！



報酬等審議会

熱海市長 齊藤 栄

市長の給料はどのように決まるか知っていますか？市長の諮問機関である熱海市特別職報酬等審議会で検討し、議会の承認を経て決定される仕組みとなっています。

先日、平成4年が最後となっていた特別職報酬等審議会を19年ぶりに開催し、その結果「市長、副市長、市議会議員などの給料や報酬は一律15%減額すべき」との答申（審議結果）を受けました。今回の審議会で、特筆すべき点が二点あります。一つ目は、初めて公開の場で審議会を開催したこと。一般傍聴者の受け入れや、議事内容のホームページでの公開を初めて行いました。

二つ目は、初めて減額の審議結果が出たことです。第1回の審議会は51年前の昭和35年に開催され、その際の市長の給料月額額は10万円。その後、平成4年の第18回の審議会で88万円となるまで増額が続き、今日に至っています。ただし、平成19年度から行財政改革プランに基づく特例減額を行っているため、現在、市長の給料月額額は27.3%カットの63万9千円です。

平成4年と比較して、熱海市の市税収入や観光入込客数は大きく落ち込みました。今回の審議会は、このような経済状況下での特別職の適正な給料や報酬を議論することを目的として行ったものです。答申内容は大変厳しいものとなりましたが、市民の皆さまの率直な声として重く受け止め、その実施に向けて努力してまいります。

クレアーレ熱海ゆがわり工房にて



熱海市長 齊藤 栄

先日、東京藝術大学と東京大学の大学院生の皆さんから、泉の街づくりについて提案をもらう機会がありました。現在、新築したばかりの泉支所に面する道路の拡幅工事を行っていますが、これに伴って住民のためのポケットパークをつくり、沿道をアートの演出しようというものです。

提案はとても斬新で、泉そして湯河原の美しい風景をのぞくための窓枠の設置や、川のせせらぎや鳥のさえずりを集音する装置付きのベンチなど、芸術や建築の専門家ならではのセンスを強く感じました。意見交換の中では、首都圏からこれほど近くに自然がこんな感じられる町があることを知らなかったなど、熱海の魅力や再生のアイデアにも話が及び、大いに盛り上がりました。

この意見交換会が行われた、泉の「クレアーレ熱海ゆがわり工房」ではステンドグラスや陶板レリーフなどを中心に多くのパブリックアートが制作されています。JRや東京メトロ（地下鉄）での実績は有名ですが、身近なところでは、泉支所の入り口にある美しいステンドグラスがクレアーレの作品です。この作品は泉支所の新築にあたり、クレアーレから特別にご寄付いただいたものですので、ぜひご覧になってください。

クレアーレはラテン語で「創造」を意味するそうです。来年にはこの工房で大学院の授業が行われるとのこと。この工房で若い学生の皆さんの創造力が育まれること、それが泉地区の街づくりにもつながることを大いに期待しています。



市長懇談会を終えて

熱海市長 齊藤 栄

今年度の市長懇談会は、従前の市長タウンミーティングとはやり方を変えて実施しました。少人数で、車座になって市民の皆さんとひざを交えた意見交換が出来る機会を持ちたいとの考えからです。

参加者の皆さん一人一人の顔を見ながらお話をするのができ、活発な意見交換が行えたことが、とても有意義でした。特に、地域に密着した課題を深く聞くことができたことが大きな成果でありました。また、高校生や地元商店街、ボランティア団体の皆さんと意見交換をすることが出来たことも今回の成果の一つと考えています。

全ての団体に共通することですが、市民の皆さんが災害に対して大きな危機感を持ち、有事の対応を真剣に考えていること、また、観光地熱海の発展、子どもたちの将来に関することについても非常に意識を高く持たれていることをひしひしと感じました。

今回の懇談会でいただいたご意見等は、すぐに対応できるものは直ちに対応しました。中長期的な課題については、しっかりと取り組んでまいります。

市長就任以来、市民の皆さんの声を直接聞くこと、そして意見交換をする機会を非常に重視してきました。今後とも市長懇談会のやり方の改革を重ねてまいります。

小学校での授業

熱海市長 齊藤 栄



先日、市内第一小学校と第二小学校で特別講師として授業を行いました。6年生を対象にした総合的な学習の時間の一環で、時間は45分間、子どもたちは最初緊張した面持ちでしたが、「足の大きさは28・5センチあります」と自己紹介すると「でかーっ」とすぐに和やかな雰囲気になりました。

第一小学校では「熱海のまちづくり」がテーマ。子どもたちは熱海が観光で成り立っていることを理解していて、観光客の減少に対して「観光施設を造る」、「宣伝をもっとする」などの意見が出ました。海、山、温泉、鳥があつて新幹線が止まる温泉地は熱海しかないこと、熱海のすばらしさに磨きをかけることの大切さを伝えると共に、ごみを拾う、観光客に声をかけることも君たちができる立派なまちづくりであると話しました。

第二小学校でのテーマは「私が政治を志したわけ」。将来の職業について考えるきっかけです。市役所の仕事そして市長の役割を説明した後、子どもたちに将来の夢を聞くと、野球選手、保健室の先生、イラストレーターなどがあがりました。市長になるまでの自分の経験を話しながら、どんな夢もあきらめずに努力すれば必ずかなうことを伝えました。

子どもたちは熱海の未来を担う大切な宝です。笑顔とキラキラ輝く目がとても印象的でした。後日、子どもたちそして先生から心のこもったメッセージを受け取りました。これからもできる限り教育現場に足を運びたいと思います。

熱高生と懇談

熱海市長

齊藤 栄



熱海高校生と懇談する機会を得ました。今年から市長タウンミーティングは、ひざを交えフランクな形で意見を聞くスタイルに変更。その中で高校生の話を聞きたくて設定してもらったものです。

熱海高校はヨット部、報道部などで全国でも輝かしい成績を残しています。ビジネス類型の授業としてイカメンチップスを企画販売するなど先駆的な取り組みもしています。懇談に参加してくれた13人は皆、若さがきらきら輝いていました。私は彼らに「あなたの夢」を尋ねました。私が大変嬉しかったのは多くの答えが「人のために働きたい」というものだったことです。「高齢者を支える介護士になりたい」、「熱海消防に入って市民を守りたい」、「ミュージシャンになって歌で人を元気にしたい」などです。

自分は高校時代の恩師の一言が今の仕事の原点になっています。進路を決めかねている私に当時の担任の先生が「お前は土木に行け」、「多くの人をまとめ道路を造る仕事がお前に向いている」と。大学で土木技術者になる勉強をし、国家公務員になり、いくつかの仕事を経て今の仕事をしています。しかし、高校時代に思った「社会に貢献する人間になりたい」という思いは今も同じです。

「みんな高校時代の今の思いを忘れないで。その純粋な思いは一生続くものです。高校を卒業したらぜひ、たくさんを経験を全国そして世界で積んでみてください。そして大きくなって熱海にぜひ戻ってきてください。」私はそう13人に伝えました。



消防大会で優勝！

熱海市長 齊藤 栄

先日、熱海港の芝生広場で田方支部（近隣5市1町）消防団による消防操法大会が開かれました。種目はポンプ車の部と小型ポンプの部で、850人を超える消防団員が集結する大規模なものでした。私は熱海市消防団の競技中すぐそばで見守っていましたが、大きな声と機敏な動きから選手たちの真剣さと緊張感が身近に伝わってきました。競技はタイムだけでなく、動作や機械の扱い、声の発し方やチームワークなども採点され、日ごろの訓練の成果を見せる晴れの舞台でもあります。

結果、熱海市はポンプ車の部で見事優勝しました！熱海市の優勝は平成15年以来8年ぶりであり、9月に開催される静岡県大会に出場します。この結果を、今年度から田方支部長に就任した牧野克昭熱海市消防団長は大変喜ばれていました。

熱海市の消防団員は現在約400人、自営業や会社員など、普段は仕事を持ちながら、火災、地震、台風などの災害発生時には常備の消防職員と協力して災害の対応に当たります。熱海市は人口約4万人ですが、観光地であること、また別荘や保養所なども多いことから10万人都市並みの消防力が必要です。消防団の協力なくしては現在の熱海市の安全・安心は維持できないのです。

東日本大震災でも消防団の活躍が注目されました。津波から住民を避難させるため、自らの命を落とした団員がいたことが報道されています。人命を守るといふ消防団の尊い仕事に対して、多くの市民の皆様のご理解をお願いします。



頑張れーぶっくま

熱海市長 齊藤 栄

4月17日、福島第一原子力発電所の事故で、国から1カ月以内の避難をするよう要請されている福島県川俣町を訪問しました。古川道郎川俣町長に直接お会いして、熱海のホテル・旅館は町民をコミュニティ単位の規模で受け入れ可能なこと、熱海市は川俣町と密に連携し住民をケアする用意があること、宿泊費用は国の公費負担であることなどをお話しし、支援を申し出ました。

市職員と共に早朝熱海を出発し、東北自動車道を約6時間北上。川俣町は地震の被害自体は小さく、それだけに突然の避難要請に大変困った様子でした。古川町長に「本当にありがとうございます。熱海を避難先検討リストに加えたい。」と応じてくれました。

今回私が川俣町を訪れたのは、首長として何かお役に立てることはないかとの思いからです。避難の対象地域や人数など国の方針が定まらない中で、町民の皆さんと直接向き合わなければならぬ町長のご苦労には大変なものがありません。

福島県にはもう一つ大きな課題があります。それは原発事故による風評被害です。このことに対して今私たちにできることは、福島の産品を買うことにより地域の経済を支えることです。既に熱海市内のホテル・旅館などが福島産の野菜などを積極的に使っているという動きがあります。

遠く離れていても熱海市が応援できることがたくさんあります。これからも福島そして東北を応援してまいります。



がんばる日本！

熱海市長 齊藤 栄

東日本大震災は東北地方を中心に未曾有の被害をもたらしました。テレビを通してその惨状を多くの国民が胸を押しつぶされるような思いで見ていると思います。こんな時だからこそ、皆で助け合って頑張らなくてはなりません。

熱海市では既に被災地に毛布や食糧などの救援物資を送っていますが、大きな貢献のひとつに緊急消防援助隊の派遣があります。震災の3日後に第1陣5名を福島県相馬市付近に派遣しました。帰庁した消防隊員から「被災地の方が我々に手を振り、頭を下げる姿を見て士気が上がった。」との報告を受けましたが、搜索活動や負傷者運搬など、放射能測定器を携帯しながらの危険の伴う大変厳しい任務でした。

民間からもすぐに動きがありました。熱海市観光協会が磐梯熱海温泉のある福島県郡山市に、タオルや歯ブラシなどを旅館、ホテル、寮、保養所などから集め、届けています。また、市民の自発的な募金活動が地震発生の翌日から始まりました。多くの市民の方から何かできることがあれば協力したいとの声を聞いており、現在の厳しい市内経済の中で人の気持ちの尊さをひしひしと感じます。

今後は被災者の受け入れが大きな課題となります。各地域が今回の災害を我がこととして小さな支援を積み上げていくことが、大きな支援に繋がります。熱海市も民間そして市民の皆様としっかり連携を図って、全国に知られた温泉地としてできる限り被災地の支援に取り組んでまいります。

水戸の人づくり



熱海市長 齊藤 栄

「全国梅サミット」で水戸の偕楽園（かいらくえん）を訪問しました。偕楽園は日本三名園のひとつとして有名ですが、水戸の人づくりについて大いに感銘を受けてきました。

偕楽園の近くに弘道館が建っています。弘道館は水戸の藩校で、剣術・柔術・歴史・天文学・数学など幅広い学問を藩士に教えた江戸時代のいわば総合大学です。水戸藩主の徳川斉昭（なりあき）公が創設しましたが、彼は弘道館で学ぶ藩士の休息の場として偕楽園を造りました。この「学び」と「楽しみ」という一見両極のものを一対で造るという発想は、当時最先端の温泉療養施設「諭氣館（きゅきかかん）」の散歩コースとして熱海梅園が設けられたことにも通じます。弘道館には水戸藩の将来のために優れた人材を育成したいという斉昭公の強い意志を感じました。

もうひとつ印象的だったのは、偕楽園で行われた梅サミットの式典でのことです。約50名の地元の小学生、幼稚園児達が我々の前で斉昭公が偕楽園を造る目的を述べた「偕楽園記」という長文の漢文を暗記して朗読してくれたことです。子ども達のその真剣な様子は大変感動的でした。難解な漢文の内容は、今は十分理解できなくとも、彼らの将来においてきつと糧になることでしょう。漢文特有の高尚な音律を聞きながら、水戸の人づくりは江戸時代から現代に脈々と受け継がれており、熱海も負けてはいられないと思いました。

夢見る力

熱海市長 齊藤 栄



さる1月22日から30日『糸川さくら祭り』が開催されました。期間中の土・日の4日間にはイベントも実施され、伊豆山の足湯、網代の干物、多賀の生ワカメなど、各地域のご当地自慢で大いに盛り上がりました。

糸川遊歩道の「あたま桜」は、ほかに八重桜やクロガネモチなども植えられていたものをあたま桜に統一して「日本一早咲きの梅と桜を同時に楽しめる熱海」を目指し、梅園とともに整備を進めてきたものです。熱海ゆかりの篤志家のご支援もいただきながら2009年からスタート。左岸のあたま桜の植栽が終了し、本年中に右岸の植栽も完了する予定です。300メートルのあたま桜に統一された並木を造る、足掛け3年の工事です。

22日のオープニングでは、あたま桜はまだ1〜3分咲きでしたが、見事な晴天でした。

「私には夢があります。個人的な夢です。糸川の両岸にあたま桜が咲いています。そして、飲食店やお店が軒を連ねて、行き交う人々で賑わっています。3年先、5年先のことになるかもしれません。この糸川を中心に銀座通りや、この一帯が熱海を中心として賑わうことを夢見ています。」

先の篤志家のこの祝辞を聞きながら、私の目にはあたま桜の濃いピンクの花の下、多くの観光客や市民が行き交うさまがまざまざと浮かびました。熱海を中心に清流糸川があり、あたま桜があることに心から感謝します。